

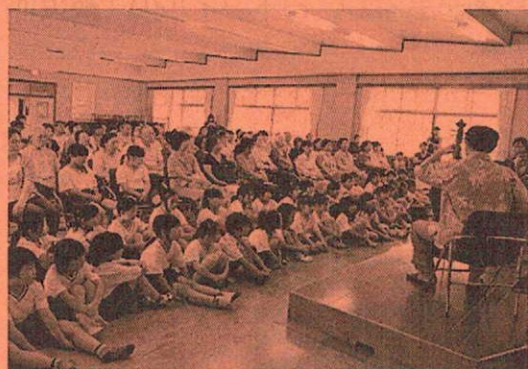
発行:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

岩手県釜石市には音楽ファンがたくさんいる。

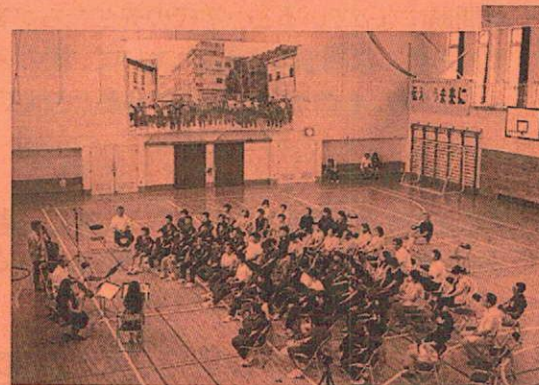
7月14日～16日弦楽四重奏が市内6ヶ所で演奏しました。

釜石は製鉄の街として知られていますが、高炉の休止以来人口が減り、さらに震災の影響で最盛期の半分以下になりました。

7月14日から3日間岩手県釜石市を弦楽四重奏で訪問しました。メンバーはヴァイオリン遠藤直子、坪井きらら、高橋智史、中務幸彦の4人。主なプログラムはモーツァルト「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」、サン＝サーンス「白鳥」、エルガー「愛の挨拶」など。曲あてクイズや指揮者コーナーもあって多彩なプログラムを用意しました。



15日午前には市内から30分ほど離れた小さな漁村、唐丹地区にある学校に。小学校も中学校も仮設の校舎に、中学生35人と地域の人たちの70人が参加しました。校歌も弦楽器の伴奏で。初めて聴く弦の響きに感動してくれました。指揮者コーナーでも元気に挑戦。過疎の学校には週に1度しか音楽の先生が来ないので、部活もままならないことがわかりました。午後は津波被害から少し奥に入った小佐野地域センターへ。逆にこの地域は、人口が増えています。子どもたちの下校時間に合わせて開演。1年生から4年生まで40人に大人も含めて120人が来てくれました。映画館も流れてなくなった釜石ですが、「Let it go」はみんな知っていました。子どもの歌声はいつ聴いてもいいです。



石造りのカトリック釜石教会にカノンがひびきました。

釜石訪問2日目16日の午後は平田(へいた)地区にある旧釜石商業高校の体育館で。ここには150世帯の仮設住宅と120世帯の復興住宅(鉄筋7階建て)が並存しています。ちょっと複雑な感じ。平田小学生60人と大人たち70人が暑い日

差しの中、集まりました。ジリジリと天井の熱が伝わり、扇風機が大活躍しました。

夕方6時からカトリック釜石教会で。約70人の方々が参加。石造りの祭壇をバックに弦の音のびのびと響いてきます。ブラボーの声もあがりました。4回全回追っかけの方もいて、「釜石には強烈な音楽ファンがいるんだな」と。1曲ごとに涙を拭う人も。

街中には大型スーパーが開店、昔からの商店が再開できない中、冷房完備の大型店の進出に地元はどう反応するのでしょうか。500人の店員募集に対し応募は300人とか。「3年も経ってしまうと働き盛りの若い人は残っていない」と居酒屋の店主は厳しい分析をしていました。



「釜石の奇跡」鶴住居中学と小学校のみんながうたう、合唱「ビリーブ」はすばらしかった。

3日目の17日は市内で一番被害を受けた鶴住居(うのすまい)地区にある鶴住居小学校と東中学校へ。学校も体育館も仮設校舎です。中学生が小学生を連れて高台に逃げ一人の犠牲者もたさなつた「釜石の奇跡」といわれている学校です。一方、皮肉にも町の中心にあった防災センターに逃げ込んだ100人を越す人たちが犠牲になったという悲劇の町。今ここにいる小学生70人のうち28人が親を亡くしたと聞いて一同絶句。中学生160人とともに歌ってくれた「ビリーブ」の美しいコーラスには、同行者一同涙がドツと溢れました。

